

カ9, 中南米8で, その他に2つの地域を限定しないプロジェクトが実施されている。分野別には, 人工林材の利用, 未利用樹種の利用, バイオマスエネルギー, 地域社会による森林事業, 木材工業の効率化, 非木材資源の利用などに区分されている。Carrillo氏は, それぞれについて実施中のプロジェクトを例にあげて, どのような活動が行われているのかを紹介いただいた。人工林材の利用については, インドネシアにおける短伐期チークの高付加価値化やインドにおけるチーク人工林材の加工について紹介された。いずれのプロジェクトにおいても, 製材と乾燥が問題となっており, これらの解決するためにプロジェクトが実施されているようである。その他に, ガイアナで実施されている未利用材の利用に関するプロジェクト, インドネシアで実施されている地域社会における非木材資源の利用などのプロジェクトが紹介された。最後に, ITTOの2008~2009年のワークプログラムが紹介された。それによると, 林地残材や廃棄物からのバイオエネルギー利用の促

進, 加工技術の高度化などが課題に挙げられているようである。

4. おわりに

本セミナーは, マレーシアで実施している熱帯産造林木に関するITTOプロジェクトを紹介し, プロジェクトの進捗状況を公表すること, これからの木材関連の国際研究の方向性を議論することを目的に開催された。特に, 熱帯諸国において人工林材の利用を推進するためには, 人工林材の高付加価値化が必要であることが認識された。熱帯諸国が, 人工林材の木材特性に関するプロジェクト等を実施し, これまで用材としてあまり利用されてこなかった人工林材の用途開発を行うことができれば, 違法伐採等に代表される違法な施業による森林の減少を抑制することができると考えられる。このような取り組みを熱帯アジア全般に広げることにより, 持続可能な森林資源の利用がアジア全域で可能となることを期待している。

図書紹介

The impact and opportunities of oil palm in Southeast Asia. What do we know and what do we need to know? (東南アジアのアブラヤシの機会とインパクト。何を知っていて, 何を知らねばならないのか?)

Sheil D. et al. 著. CIFOR occasional paper, CIFOR Bogor Indonesia. 2009. ISBN 978-979-1412-74-2

本書は, 国際林業研究センター(CIFOR)によるアブラヤシ(農園)の環境影響に関する解説書です。アブラヤシ農園面積やヤシ油の需要の変化, 生物多様性や温暖化ガスの収支など農園開発の環境影響などが, 多数の文献・資料から整理して示されます。またアブラヤシ農園の開発やヤシ油の利用が環境や社会に与える悪影響を低減するために必要な研究課題も提示されています。英語が平易で分量も適当なので, ご一読をお勧めします。(藤間 剛)